

各関係機関長様

佐賀県農業技術防除センター所長

タマネギベと病の防除対策について

- 本圃での防除対策は定植後から始めましょう！ -

タマネギベと病は、秋から冬に苗床または本圃でタマネギに伝染した後、1月下旬から3月に越年罹病株として発生します。越年罹病株は発生から1~2か月間、断続的に孢子を形成して伝染源となり、4月以降の多発生につながるため、本病による被害を防ぐには、苗床から伝染を抑制し、越年罹病株の発生を抑えることが重要です。

ここ数年の多発生により、本圃での本病原菌の密度は高まっていると考えられるため、注意が必要です。

については、近年における本病の発生の特徴及び防除対策をとりまとめましたので参考にしてください、確実に防除対策を実施してください。

記

1. 近年の発生の特徴(図1参照)

(1) 苗床での発病

これまで、苗床での発生は認めていなかったが、平成26年には初めて発生を確認した。

(2) 越年罹病株の発生の早期化と多発化

越年罹病株の初発時期は早期化傾向にあり(表1、写真1)、発生量も増加している。

(3) 春期の発生増加

早生品種では4月以降に二次感染株が多発生している。また、その近隣の中晩生品種にも伝染が拡大し、大きな被害を生じている。

(4) 以上の発生状況から、近年、地域内での菌密度は高まっていると考えられる。

図1 タマネギベと病の発生パターン

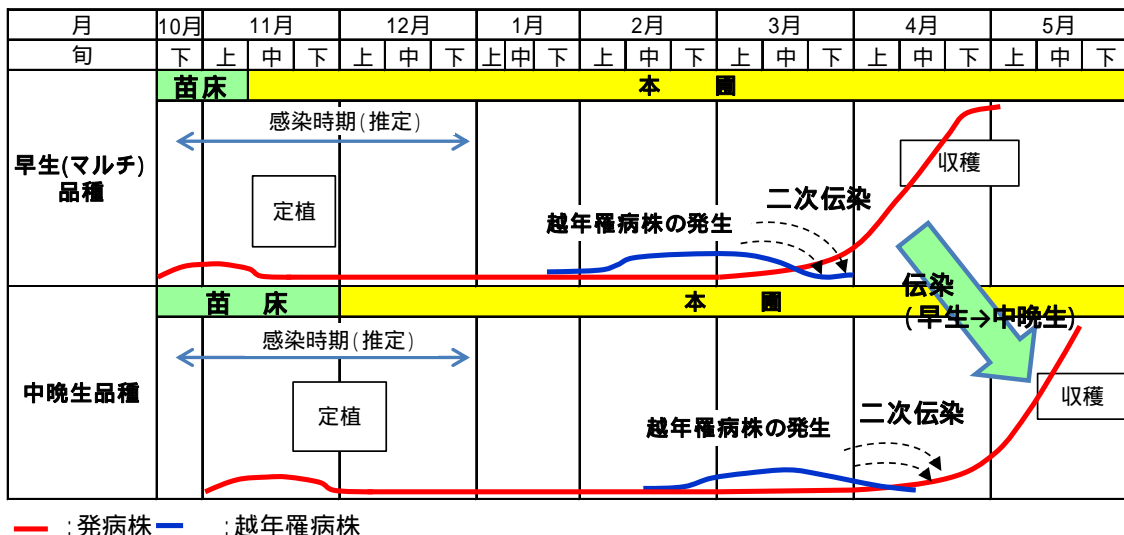


表1 タマネギ巡回調査におけるべと病越年罹病株の初確認日
(農業技術防除センター調査による)

調査年	初確認日	
	マルチ被覆圃場	露地圃場
平成24年	2月28日	3月21日
平成25年	2月7日	2月20日
平成26年	2月3日	2月3日
平成27年	1月26日	1月26日

注) 4か年ともマルチ、露地タマネギを8圃場ずつ、各圃場2,000株調査



写真1 タマネギべと病越年罹病株
(平成27年1月26日撮影)

2. 防除対策 (表2 参照)

(1) 秋期 (苗床)

苗床の土壤消毒を確実に実施し、育苗期に薬剤防除を行う。【苗床での感染防止】

(2) 12月～1月頃 (定植後)

本圃初期に薬剤防除を行う。【定植株への伝染防止による越年罹病株の発生抑制】

(3) 1月下旬～3月頃

越年罹病株の発生に注意し、**発見した場合は、抜き取って圃場外へ持ち出し処分する。**【伝染源の除去】

(4) 3月以降

収穫まで定期的に薬剤散布を行い、**特に、二次感染直前と球肥大初期に防除を徹底する。**【周辺タマネギへの蔓延防止】

早生タマネギ等で早期に発生したべと病が、周辺のタマネギの感染源となる場合があるため、**防除対策には地域全体で取り組む。**【地域内の菌密度低減】

表2 タマネギべと病の特徴と防除のポイント

時期	感染(肉眼では気づかない)や発病(肉眼で分かる)など	防除対策
秋期 (苗床)	・土の中に生存する菌が、タマネギに伝染する。 ・苗床で発病することがある。	・土壤消毒の実施 ・育苗期の薬剤防除
12月～1月頃 (定植後)	・土の中に生存する菌が、タマネギに伝染する。 ・低温のために、冬の間感染株が発病することは少ない。	・本圃初期の薬剤防除
1月下旬 ～3月頃	・越年罹病株が、1月下旬～3月に連続して発病する。 ・症状は、葉が黄化・色あせ、湾曲し、草丈が小さくなる。株全体にピロード状の灰色～灰褐色の分生子を形成する。	・ 越年罹病株 を早期に見出し、抜き取る。
3月 以降	・3月上旬頃(平均気温10℃以上で降雨が続く時期)から越年罹病株の周囲の株に2次伝染する。 ・4月中旬～5月中旬にさらに発生が増加する。 ・発生株は、葉に淡黄緑色の楕円形の病斑ができ、やがて枯死する場合もある。	・2次伝染直前の防除を徹底する。 ・引き続き、発生初期の防除に重点をおきながら、発生状況に応じた追加防除を行う。 ・発生が増加しやすい 球肥大初期 の防除を徹底する。 ・気温15℃前後で曇雨天が続くと多発生しやすいので、このような場合は特に防除を徹底する。

【参考データ】

本圃初期の薬剤防除による越年罹病株の発生抑制効果

(2015年、農業試験研究センター)

定植後の感染による越年罹病株の発生を抑制するため、本圃定植後の薬剤防除による効果が検討された。

その結果、「慣行防除区」では2月上旬から越年罹病株が発生し、3月末には発病株率が1.5%となったのに対し、慣行防除に加え本圃初期の12月、1月に追加防除を行った「初期追加防除区」では、越年罹病株の初発生は2月中旬とやや遅く、同株率は0.5%であり、発生を抑えることができた。(表3、図2参照)。

本圃初期の追加防除に有効な薬剤の選定等についてはさらに検討する必要があるが、本圃初期の薬剤防除が越年罹病株の抑制に有効であることが明らかになった。

表3 試験区における薬剤防除の実施状況

試験区	定植前	定植後						
	11月11日	12月9日	1月9日	1月15日	2月13日	2月28日	3月13日	3月23日
初期追加防除	リドミルMZ	ベトファイター	カンパネラ	ナレート	シグナム	ジマンダイセン	ザンプロDM	プロポーズ
慣行防除	同上	無防除		同上	同上	同上	同上	同上

注) 定植: 2014年11月13日、白石町現地圃場、リドミルMZ水和剤1000倍、ベトファイター水和剤2000倍、カンパネラ水和剤750倍、ナレート水和剤800倍、シグナムWDG1500倍、ジマンダイセン水和剤400倍、ザンプロDM1500倍、プロポーズ顆粒水和剤1000倍、ダイナモ顆粒水和剤2000倍、ベトファイター水和剤およびカンパネラ水和剤は150L/10aを散布、その他の薬剤は乗用管理機での生産者慣行散布による。

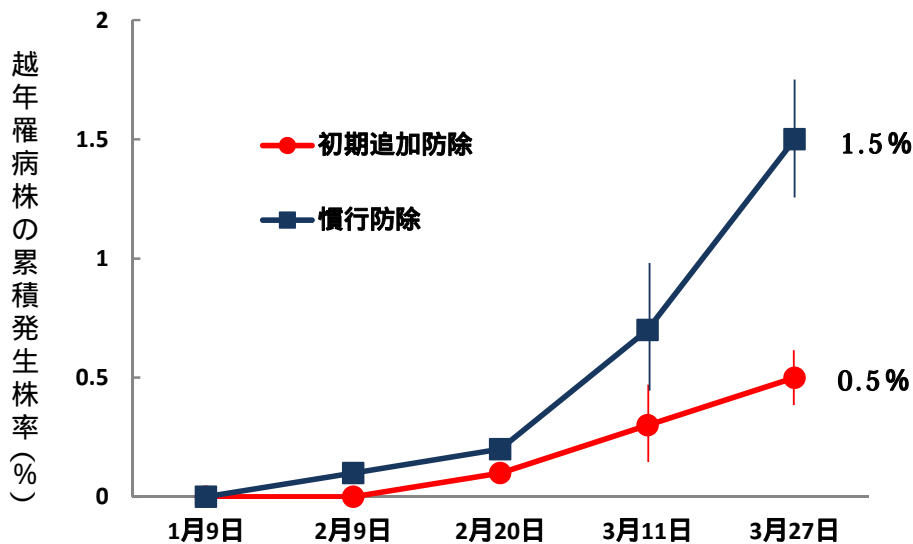


図2 本圃初期薬剤防除によるタマネギべと病越年罹病株の抑制効果

注) バーは標準偏差を示す